

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう!岩手 つなごう!岩手 第 161 号 令和 2 年 5 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

「いわて復興インデックス」における主な取組の進捗状況

岩手県では、沿岸被災 12 市町村を中心とした本県の復旧、復興の現状や進捗状況を分かりやすくお伝えするため「いわて復興インデックス」を 3 か月に 1 回更新しています。今回は、令和 2 年 3 月 31 日を基準日とし、5 月 11 日（月）に公表しましたので、主な内容を紹介いたします。

「安全」の確保

復興道路の整備進捗率：70%
事業化延長 359km に対して供用延長 250km

令和 2 年 3 月 1 日に、「三陸沿岸道路 久慈北道路」（延長 7.4km）が開通しました。

「なりわい」の再生

さんりくなりわい創出支援事業の進捗率：88%
令和元年度計画値 25 者に対して 22 者

女性や若者をはじめ、沿岸 12 市町村で起業や新事業進出を希望する方々へ支援を行っています。

「暮らし」の再建

災害公営住宅整備状況：98%
計画戸数 5,833 戸に対して完成戸数 5,734 戸

沿岸地域の災害公営住宅の全計画戸数（5,550 戸）が完成しました。現在、内陸部 1 箇所のみが工事中となっており、今年度中に完成予定です。

未来のための「伝承・発信」

東日本大震災津波伝承館での企画展開催率：200%
令和元年度計画値 2 回に対して 4 回

令和元年 9 月に開館した東日本大震災津波伝承館では、「東日本大震災津波から 9 年～自然災害を乗り越える～」企画展などを開催しました。

■問い合わせ

岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6945

詳細は県ホームページをご覧ください。



「社会資本の復旧・復興ロードマップ」における復興事業の状況

岩手県では、被災者の今後の生活設計・再建等に資するよう身近な社会資本の整備状況をお伝えする「社会資本の復旧・復興ロードマップ」を年に 2 回更新しています。今回は、令和 2 年 3 月 31 日を基準日とし、5 月 11 日（月）に公表しましたので、主な内容を紹介いたします。

前回（令和元年 9 月 30 日）から 6 か月間で、新たに復旧・復興事業 26 箇所が完成し、これまでに全体 775 箇所のうち、9 割を超える 708 箇所（91.4%）が完成しました。

復興まちづくりでは、釜石市が東部地区で、また大槌町が安渡地区で進めていた津波復興拠点整備事業が令和 2 年 3 月に完了しました。整備された市街地は、地元の復興を先導する拠点となります。

また、主要地方道重茂半島線大沢～浜川目工区が、3 月に全線開通（2.8 km）しました。東日本大震災津波で浸水した区域を回避して整備され、災害等が発生した際に緊急時の輸送路としても機能します。

海岸保全施設では、3 月に久慈市

夏井川防潮堤、大船渡市崎浜漁港海岸防潮堤、陸前高田市気仙川水門など、計 10 箇所が完成しました。この水門には今後、自動閉鎖システムが導入される予定です。

復旧・復興事業の進捗状況についての詳細は、県ホームページをご覧ください。



■問い合わせ

岩手県復興局まちづくり・産業再生課 ☎019-629-6931



進捗状況表



釜石市の東部地区



陸前高田市の気仙川水門

新型コロナウイルス感染症に関する岩手県からのお願い

「新しい生活様式」による感染拡大予防について引き続きご協力をお願いします



- 相対的にリスクの高い都道府県への移動の自粛をお願いします
- 「三つの密」のある場などへの外出の自粛をお願いします
- 施設(店舗など)・職場における感染対策の徹底をお願いします
- 思いやりのある行動と冷静な対応をお願いします

津波発生時の避難路 「グリーンベルト」 供用開始

釜石市
KAMAISHI

釜石市が整備を進めてきた東部地区避難路（通称：グリーンベルト）が完成し、令和2年4月1日（水）から通行できるようになりました。

グリーンベルトは、港湾利用者が津波から安全に避難するため、盛土の緑地が連続する堤防や陸閘（りっこう）の擁壁の上部などを活用し、高さ8.0m～12.0mに整備された避難路です。また、普段は市民が遊歩道としても利用できます。

長さは約750mで、同市港町の釜石港湾事務所付近から同市只越町の市営釜石ビル前の交差点付近を結び、市道などからは上り口として階段6箇所、スロープ5箇所が設けられ、高台の緊急避難場所まで安全に避難することができます。

また、同避難路は、湾口防波堤や防潮堤に加え、津波発生時の浸水を抑える効果も期待され、多重防災型まちづくりの一端を担うものです。



供用が開始されたグリーンベルト

「宮古トラウトサーモン」 初出荷

宮古市
MIYAKO

令和2年4月24日（金）、宮古湾内の海上で養殖された「宮古トラウトサーモン」が宮古市魚市場に初出荷されました。

初出荷された宮古トラウトサーモンは、秋サケなど主要魚種の不漁が続く中、宮古市が宮古漁協、日清丸紅飼料(株)、水産研究・教育機構東北区水産研究所（宮古）などと連携し、昨年11月に試験的に養殖を始めたもので、宮古湾内に設けた八角形のいけす（直径約20m）2基に稚魚を投入し、飼育してきたものです。

当日の早朝、魚市場では、宮古トラウトサーモンの試食会や出荷式、出荷された500尾の競り及び入札が行われ、2～4キロに育った宮古トラウトサーモンに1キロ600円以上の値がつきました。高いもので1キロあたり1,000円で取引されたものもあり、仲買人らが威勢よく買い付けると、関係者に笑顔が広がりました。この水揚げは7月まで続き、今シーズンの目標として50トンが予定されています。

また、名称は応募327点の中から宮古市立宮古小学校4年生の佐藤優衣さんが考案した「宮古トラウトサーモン」に決定され、新たな地域ブランドへの期待が高まっています。



海上養殖の様子

三陸鉄道の新駅 「新田老駅」 開業

宮古市
MIYAKO

令和2年5月18日（月）、三陸鉄道リアス線の新駅「新田老駅」が開業しました。

新田老駅は、田老駅と摂待（せったい）駅の間にある三陸鉄道41番目の駅です。周辺に災害公営住宅や道の駅などが完成し、地域で暮らす住民が増えたため、宮古市の田老総合事務所の新庁舎と一体となって駅の整備が進められてきました。

ホームと新庁舎の3階が連絡通路でつながっており、エレベーターを備えたバリアフリー構造になるなど利便性も向上しています。

今後、新たなまちづくりの拠点として期待されます。

三陸鉄道の最新情報はホームページをご覧ください。



記念式典の様子

東日本大震災津波伝承館 再開のお知らせ

東日本大震災津波伝承館は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月12日（日）から休館しておりましたが、5月25日（月）から再開しました。

なお、伝承館では、感染症対策として、供用機器類の一部利用停止やシアターの座席数縮小等の対策に加えて、赤外線サーモグラフィや非接触型体温計による体温測定を実施しています。来館者の皆様にはご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【東日本大震災津波伝承館の感染症対策】

- ① 供用機器類の一部利用停止
- ② シアターの座席数縮小
- ③ 館内清掃及び換気の徹底
- ④ 手指消毒及びマスクの着用等のお願い
- ⑤ 赤外線サーモグラフィや非接触型体温計による来館者の体温測定

詳細は東日本大震災津波伝承館のホームページをご覧ください。



■問い合わせ

東日本大震災津波伝承館 ☎0192-47-4455



東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。今回は山田町の郷土芸能「愛宕青年会 八木節」について、武藤勝彦さんに伺いました。



岩手 三陸山田
愛宕青年会 八木節
会長
武藤 勝彦さん

昭和 20 年代後半から 30 年頃にかけて、当時の山田町愛宕地区で踊りだしたのが、この地域での八木節の始まりだと言われています。

八木節の発祥の地は、群馬県や栃木県など諸説ありますが、歌、太鼓、笛に合わせた手踊りのようなもので、山田町に伝わってからは、「スルメも大漁、サンマも大漁」など、独自の

文言も入り、地域の大衆芸能として親しまれ、9月に行われる祭りでは総勢 150 人を超えるような多くの参加者が行列をなすなど賑わっていました。

山車を保管したり、祭りの時に人が集える場所を地元では「宿」と言い、町の消防団の屯所を利用していました。東日本大震災津波で建物が全壊し、発災時には火災も発生したことから衣装や道具も全て失くしました。

山田町では震災の年の 9 月には祭りが復活しましたが、当時は街灯も何もなく、まだ薄暗い中、町内を回り戻ってきた山車の明かりが神々しく、いろいろなことが思い

出され涙が止まりませんでした。

その後、県や町から支援を受け、大工をしているメンバーもボランティアで加わり、「宿」を再建することができ、八木節を継承しています。

震災前には、群馬県や栃木県の団体さんとはお付き合いはなかったのですが、震災後、八木節の T シャツを 100 枚単位で送っていただいたり、交流も始まり、春先の桜まつりには山田町に来ていただき、一緒に演舞を行ったりしました。

これからもご支援いただいた皆様に声をかけさせていただき、街が落ちついた時に山田町にお招きするなど交流を深めたいと思っています。



愛宕青年会 八木節の演舞の様子 (写真提供: 愛宕青年会 八木節)

「いわて幸福白書 2020」公表

平成 31 年 3 月に策定した「いわて県民計画 (2019 ~ 2028)」では、東日本大震災津波からの復興の実践で学び、培ってきた「一人ひとりの幸福を守り育てる」姿勢を県政全般に広げるとともに、計画の基本目標に掲げる「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現を目指して取組を進めていくこととしています。

「いわて幸福白書 2020」(令和 2 年 4 月公表)では、各分野の有識者、専門家の方々へのインタビューや寄稿、幸福度の向上につながるトレンドや、国内外における「幸福」をめぐる動きをご紹介しますとともに、県の施策や今後の方向について掲載しています。

「いわて幸福白書 2020」は、県ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。



「いわて幸福白書」

■問い合わせ

岩手県政策企画部政策企画課 ☎019-629-5509

「買うなら岩手のもの」ポータルサイト開設のお知らせ

岩手県は、新型コロナウイルス感染症の影響対策として、県民の皆様が県内の生産者や企業の商品を知って、消費していただくことで、地元生産者や企業を応援し、地域全体を元気にしていくためのキャンペーンを展開しています。

キャンペーンの一環として、県内外で活躍するライターやカメラマンなどの有志等で構成する「買うなら岩手のもの」総合サイト製作委員会がポータルサイトを制作し、5月25日(月)から運用を開始しました。

岩手県内の「買う」を応援するこのポータルサイトでは、店舗や生産者等の掲載登録を募集していますので、ぜひご応募ください。

また、「食」以外の店舗・施設などの情報も広く掲載されていますので、ぜひご覧ください。



ポータルサイトの閲覧や掲載の希望はこちらのホームページからお願いします。



■問い合わせ

岩手県商工労働観光部産業経済交流課 ☎019-629-5536

大震災の事実や記憶、経験及び教訓を伝える「震災伝承施設」が、国土地理院が提供するウェブ地図「地理院地図」上に掲載されています。

ご自宅や学校などで震災伝承施設について学べるツールとして、ぜひご利用ください。

ウェブ地図内容

空中写真や標高地図など、地理院地図のコンテンツと共に震災伝承施設の所在地や情報を確認できます。震災伝承施設の周辺の地形や当時の状況、現在までの環境の推移が分かり、改めて震災を知り、教訓を学ぶことができます。



地理院地図での伝承施設の閲覧はこちら >>>

岩手県内の震災伝承施設

現在、岩手県内では、「東日本大震災津波伝承館」、「津波遺構たろう観光ホテル」などの震災伝承施設が計 80 箇所登録されています。

なお、震災伝承施設は、国・被災 4 県・仙台市で構成される震災伝承ネットワーク協議会が登録した施設です。



震災伝承施設の検索はこちら >>>

■問い合わせ

震災伝承施設関係：震災伝承ネットワーク協議会事務局（国土交通省東北地方整備局企画部）☎022-225-2171

地理院地図関係：国土地理院（東北地方測量部）☎022-295-8611

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第 106 回は、佐藤 寛志さんを紹介します。

PROFILE

花巻市出身・大船渡市在住。海外でダイビングインストラクターとして活躍する傍ら、震災前から岩手県沿岸で鮭の遡上の観察等を行う。

平成 23 年に NPO 法人 三陸ボランティアダイバーズを設立し、海中のがれきの撤去や清掃、生態調査などの活動を続ける。また、ダイビングショップを開業し、エコツーリズムを通して三陸の海の素晴らしさを発信している。

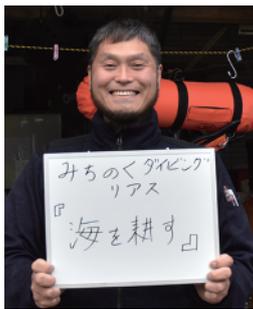
三陸の海をきれいにしたい

主に東南アジアでダイビングインストラクターとして活動していた佐藤さんは、東日本大震災津波を機に岩手県に戻り、他のダイバーとともにボランティアとして海に潜りました。

「震災直後、海の中は陸上にあるはずの人工物



- ・NPO 法人三陸ボランティアダイバーズ 理事長
- ・みちのくダイビング Rias 代表 佐藤 寛志さん（さとろし）



みちのくダイビングリアス
「海を耕す」

だらけで、とても海の中とは思えない状態でした。水は濁り、安全確認をしながら手探りでがれきにロープをかけて引き上げました。世界中の海を見てきて、三陸の海も震災前のようにきれいにしたいとの思いが強くなりました。」と、当時を振り返ります。

未来へつなげる“里海（さとろみ）ダイビング”

「近年、三陸の海でも、気候の変動からワカメやコンブなどの海藻がなくなり、海中が砂漠状態になる“磯焼け”という現象が問題となっています。その対策として、一定エリアへのウニの移しかえや駆除、コンブの種付けを行い、また、アワビの稚貝の放流を行う中で、豊かな三陸の海を知ってもらい、海を育て、一緒に海を耕すようなダイビング“里海（さとろみ）ダイビング”というプランを進めています。多くの人たちに三陸でのダイビングを楽しんでもらいたいです。」と、“豊かな三陸の海”の未来に向けて、佐藤さんは活動を続けていきます。

岩手県の被害状況

令和 2 年 4 月 30 日現在

皆様のご支援、ありがとうございます

令和 2 年 4 月 30 日現在

▶人的被害 死者（直接死）：4,674 人 行方不明者：1,112 人
死者（関連死）：469 人

▶建物被害（住家のみ、全半壊） 26,079 棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

▶義援金受付状況 約 187 億 3833 万円（97,434 件）

▶寄付金受付状況 約 200 億 9018 万円（9,920 件）

▶いわての学び希望基金（※）受付状況 約 100 億 5163 万円（24,469 件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約 24 万点の資料を検索・閲覧できます。



いわて震災津波アーカイブ

検索

いわて復興だより 第 161 号 令和 2 年 5 月 26 日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6945
編集・印刷：シナプス